

受講番号 18008 学校名 山田高等学校定時制 氏名 石川 公明

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 1年生 生徒数 9名
 科目名 英語 単位数(授業時数) 2時間 使用教科書名 Viva English

クラスの様子・特徴

本校1年生は男子5名女子6名の少人数クラスである。年齢層は幅が15歳～22歳と幅があり、学校での学習から数年遠ざかっていた生徒もあり学習の背景は多種多様である。生徒の大半が英語に苦手意識を持っている。(事情で調査対象が9月より9名になった)

問題の確定

生徒たちが、まず自ら考えて英語の学習ができるために、基本的な語彙を身につけさせなければならない。

予備調査

A 授業の観察

音読による単語学習を授業の最初に行っているが、全く声の出ない生徒がいる。また40分の授業であるが集中力がとぎれてしまう生徒もいる。しかし、根気強く続けてきた単語の学習は徐々に定着しつつある。

B 生徒による授業評価

4月に行ったアンケート。英語が好き3名、嫌い5名、普通3名。英語の難しいところは「発音」「単語」と苦手意識が強い。しかし、英語の好きなところは「歌」、勉強したいことは「単語」「英語の歴史」と学習の意欲もある。

C 学力データ

中学校既出50語単語力診断テスト:平均26点。単語テスト1回目:平均31点。定期テスト中間:平均52点。期末:平均62点。(各テストの平均点は以上の通りだが、生徒間の点数差がかなり大きい)

リサーチ・クエスト

基礎的な語彙力の乏しい生徒たちに、語彙力を身につけさせ、自ら考えて英語の学習ができるようにするためには、どのような指導をすればよいのか。

仮説・実践・検証

仮説1

毎時間単語の発音練習と意味の確認をすることで、英語に興味を持てるのではないかと。

実践1

単語集を使用した学習。40分の授業時間の内10分程度で見開き2ページを学習した。単語を板書しておいて、スペリングを確認しながら1単語につき5回くらい音読練習を行った。音読の後、意味の確認と時間に余裕があれば右ページの確認問題を解かせた。毎回大きな声で音読するのは4名で他の生徒はボソボソと小声で読む程度だった。

検証1

毎時間行ったわけではないが、「授業の最初は単語集を開いて」というのが形になってきた。全く声が出なかった生徒が小声ではあるが音読し始めたり、必ず大きな声で読める生徒は中心となって頑張ることができた。12月に行ったアンケートでは音読は効果があったと答えた生徒が半数以上あり、「音読したら単語が覚えやすかった」「少しは単語が読めるようになった」「音読したら結構頑張れた」等、英語学習の基盤が作れたようだ。

仮説2

学習した単語を含む語句や英文を使って復習をすることで、語彙力の定着を図れるのではないかと。

実践2

定期的に行った単語テストの前や教科書の本文を進めながら復習を行った。単語集の右ページには簡単な確認用の問題があり、語句や英文のなかで復習できた。また教科書の本文中で学習した単語が登場した場合は、口頭での質問の形であったができるだけ復習をするように心がけた。いずれの復習の形も必ず音読をさせるようにし意味とスペリングの確認もできるだけ行った。

検証2

家庭学習の習慣がほとんど無い生徒達に学習した単語をできるだけ多く定着させるための活動だけに一番苦労した部分である。「基本的には復習は自分で行う、事を言いつづけてきたが効果が無く、2単位の限られた時間内でどれだけ単語力定着のための復習ができたかは分からない。ただ復習する時、語句や英文の中で行うと単語の意味が覚えやすいというのが、多くの生徒の感想である。

仮説3

定期的に単語テストを行うことで、語彙力の定着度を知り、学習意欲を喚起できるのではないかと。

実践3

学習した単語の小テストを行った。できるだけ頻繁に行うつもりだったが結局9回の実施だった。1学期当初は単語集に付属の小テストをそのまま使ってみたが、生徒たちには意外に難しそうであったのと、自分自身が意図するところとズレがあったため、3回目から自作のテストを使用した。せっかく音読の練習をしているのだから、聞き取りの部分を取り入れたり、選択肢を入れたり生徒にとっては、とっつきやすいものにした。

検証3

小テストの結果(1回目からの平均):26.9/30.6/37.5/30.6/62.8/72.9/50.9/45.7/ 以上の結果から点数的な伸びは多少認められる。テストのファイルは生徒によってまちまちであったが、きちんとファイルできていた生徒は点数も良かった。アンケートでは「勉強時間が増えた」「間違ったところを復習したい」等、学習意欲の喚起につながった生徒もいた。

研究の成果

4月から始めた単語学習は時間的な制約もあり約300語しか進めることができなかった。ただ生徒自身が単語の学習の仕方ある程度理解したこと、教科書やプリント等で学習した語彙の数を考慮すると300+α語とは考えられないだろうか。その根拠として、4月当初に行った単語力診断テストを12月に予告なしで行ってみたが平均点で11点良くなっていることや、約9割の生徒がアンケートの中で単語学習の「音読」と「単語テスト」は効果があったと答えていることがあげられる。基礎的な語彙の学習が「学習意欲の喚起」と「自ら考える」ことにある程度役についたと思われる。

今後の授業改善の課題

中学校の既習事項に不安がある生徒たち相手に、音読を中心とした単語学習を続けてきたが、「語彙力」と「学習の意欲」の面では効果があることがわかった。ただ、学習する語数やテストの回数が適切なものであったのか、また音読はメインの活動に据えるものの、より効果的な復習方法やテスト内容の考察は今後も生徒の状況を観察しながら行っていく必要がある。